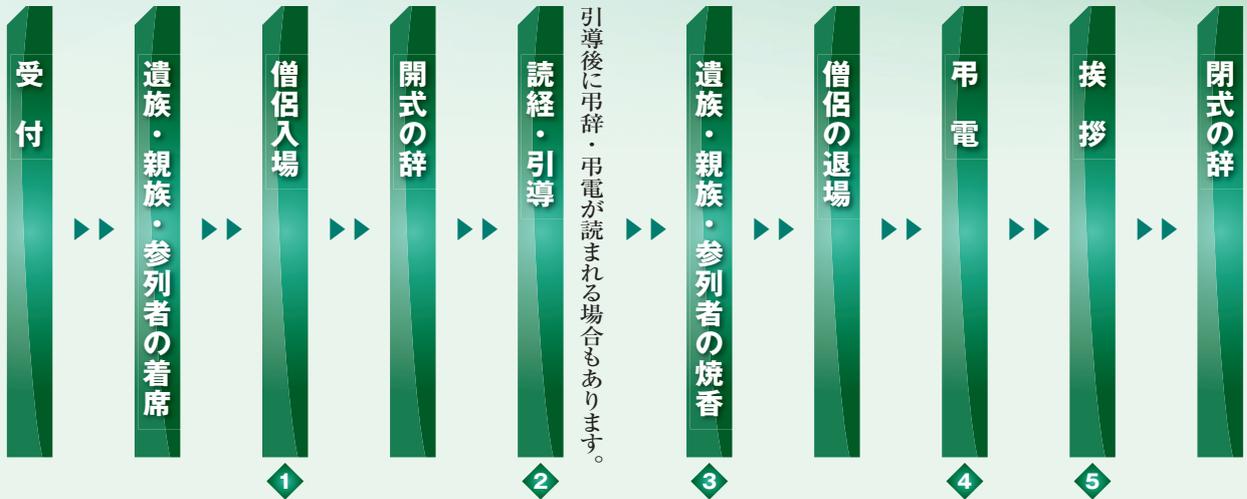


葬儀は遺族や親族が故人の冥福を祈り、成仏を願って行われる儀式です。一方、告別式は故人の友人・知人が最期のお別れをする儀式となりますが、最近では葬儀と告別式が同時に行われるのが一般的です。

● 葬儀・告別式の流れ



1 僧侶入場

喪主をはじめ、参列者全員が着席したのを確認して、僧侶が入場します。イスに座っている場合は、起立して迎えることもあります。僧侶が着席したら、司会者が開式の言葉を述べます。

2 読経・引導

僧侶による読経が行われます。この時、死者を仏の道に導き入れるために引導が渡されます。

※宗派によって異なります

3 遺族・親族・参列者の焼香

僧侶の読経中、案内があったら、まず喪主、親族(血縁の濃い順)に焼香を行うのが一般的です。その後、参列者が焼香を行います。

※告別式終了後、初七日の法要を行う場合があります。その際の焼香は遺族・親族のみとなります。



4 弔電の奉読(宗旨によって弔電が焼香の前になることもあります。)

司会者が弔電を奉読します。全文を読み上げるのは親しい方など5通くらいにし、残りは名前だけを読み上げます。

5 挨拶

告別式の終了時に喪主または遺族代表があいさつを行うのが一般的です。最後のお別れで柩のふたを閉めた後に行う場合や、出棺のお見送りの時に行う場合もあります。



こんなときはどうする?

ご遺族から弔辞を頼まれた場合

弔辞は故人を偲び、故人に捧げる最後の言葉です。ご遺族から頼まれた場合は、よほどの事情がない限り引き受けるのが礼儀です。一般的に弔辞は、依頼された人が捧げるものですが、ぜひともという場合は、自分から申し出てもよいでしょう。その場合は、前日までにご遺族や世話役の了解をとっておく必要があります。

■ 弔辞の読み方



①祭壇の前でご遺族と遺影に一礼してから上包みを開く



②弔辞を目の高さに掲げ、開きながら読んでいきます



③終わったら上包みの中に、もと通りに戻します



④表書きを祭壇の方に向けて供え、ご遺族と遺影に一礼してから下がります



日産労連の「葬儀共済」

「葬儀共済」とは、万一の際に、全国共通の葬儀の基本セットを低廉かつ明瞭な金額でご提供し、電話1本で全国の加盟葬儀社をご紹介させていただく制度です。

● 制度運営会社 (株)全国儀式サービスのホームページ

全国儀式サービス

検索

<http://www.gishiki.co.jp>

ユーザー名: gishiki

パスワード: members

● スマホ・携帯版ホームページもあります!

葬儀支援サービスの内容や全国の加盟葬儀社・斎場が検索できます。

葬儀のご手配、事前のご相談

24時間365日対応



0120-421-493